

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1193200183		
法人名	社会福祉法人 晃樹会		
事業所名	らんざん苑グループホーム		
所在地	埼玉県比企郡嵐山町越畑1330		
自己評価作成日	令和 2年 12月 1日	評価結果市町村受理日	令和3年4月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社プログレ総合研究所		
所在地	埼玉県さいたま市大宮区大門町3-88 逸見ビル1階		
訪問調査日	令和 3年 3月 3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者の居住空間は1階に限定しており、災害時の避難を迅速に行うことができる。建物自体も地震、火災に強い鉄骨造りになっている。同法人の介護老人福祉施設の看護師と連携することで医療面の相談も手厚くできている。毎日の食事は季節感を取り入れた手作りの食事を提供し喜んでいただけている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者と共に笑い・楽しみ・悲しむを理念に掲げ支援をおこなっている。常に利用者本位に、事業所の都合になっていないかと振り返りをしている。利用者の亡き夫が数十年前に植樹した桜を探しに出かけたり、地域の花の名所への見学、地元の神社への参拝などの希望を叶え、喜びを共有している。法人全体で地域との連携に取り組んでおり、防災協定の締結や認知症ケア向上事業に援助をしている。また、認知症の理解の啓蒙活動として、シンボルカラーであるオレンジ色の花を植えるオレンジガーデニングプロジェクトに参加し、利用者とともに花を植えた。認知症状の緩和のため、1000ccの水分量摂取に取り組み効果を出している。協力医療機関とも連携を深めて減薬に繋げている。事業所は田園地域に位置し、窓からは鴨の泳ぐ池が、テラスからは夕日が見られ、利用者はゆったりと生活している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I	理念	1193200183	1E+09	1193200183	1193200183	1193200183
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼で毎朝、全員で理念を声に出して言うことで常に意識し共有している。		利用者【共に】をキーワードに、一緒に笑い・楽しみ・悲しむことを大切に考えている。利用者の亡き夫が数十年前に植樹した桜を探しに出かけ、記念写真をとるなどしている。常に本人主体になっているか振り返っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルスの影響により、外出や面会を中止している状況。		地域からの入居者も多く、知人や民生委員の訪問がある。職員にも地域出身者が多く、会話が弾む。散歩中に挨拶をし、野菜をいただくなど交流がある。管理者は、認知症ケア向上事業に携わり、様々なイベントに参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護の相談は随時受け付けている。役場からの依頼で認知症サポーターの講師を務めることがある。また、埼玉県認知症ケア向上事業のメンバーとして活動している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度はコロナウイルスの感染防止のため運営推進会議を行っていない。		これまでは、2か月毎に利用者・家族・地域包括職員・区長・法人代表・管理者の参加で行っていた。現在は、活動内容や利用状況等の報告で代行している。今後、リモートでの会議を検討中である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	認知症サポーターの依頼があれば受けている。また、オレンジガーデニングプロジェクトについて情報をいただき連携して取り組んでいる。		行政とは、更新期の実地指導や加算・体制等随時相談したり、防疫品の提供を受けている。行政から情報提供を受け、認知症の理解の啓蒙活動に参加している。100歳を迎えた利用者に町長が訪問し表彰を行った。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はもちろん、言葉での拘束や過剰な服薬も行わず人的ケアを心掛けている。		研修は年間計画に組込まれている。朝礼や会議の際、随時ミニ研修は行われている。管理者が最新の情報をもとに資料を作成し読合せをしている。2か月毎に、身体拘束防止委員会を開き、ユニット間の解錠や声かけ等について話し合う。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修を実施している。また、職員同士で間違えがないよう相互確認している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在該当者はいないが、施設内研修等で学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に身元引受人の方に十分な説明を行い、疑問点等の確認も行い、納得のうえで署名、捺印をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	今年度は行っていないが、ご家族との懇談会の機会を設け、ご意見、ご提案をいただいた運営に反映させている。それ以外にもご相談、ご要望があれば随時十分に時間をとって面談をしている。	例年は、家族懇談会を開き、広く意見を聞いていた。利用料や物品を家族から直接受け取るようにして、普段から意見を言いやすい関係を整えている。面会の要望に、電話やガラス越しであるが対応した。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月会議を設け、職員全員から意見、提案、疑問点を挙げてもらい、改善に努めている。随時必要なことと管理者に相談できる環境作りに努めている。	会議以外でも常に意見を聞くようにしている。職員は連絡ノートにて意見・要望を伝えることができる。業務の見直し・効率についても随時意見が出て、加湿対策や洗濯機の買い替え、フェイスシールド等具現化した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各ユニットに常勤職員を3名以上配置している。定期昇給、賞与、処遇改善費を支給している。福利厚生助成金を支給することでストレス緩和を図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	OJTの他に外部研修の参加を推進しているが、今年度はコロナウイルスの関係でほぼ機会がない。担当職員を講師として内部研修を適宜行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者が「埼玉県認知症ケア向上事業」のメンバーであり、他施設との交流機会を持っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所相談時、家族と本人の面談を行い、趣味、生活歴等わかる範囲で聞き取り、生きがいや趣味が継続できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時、困っていること、要望や不安をじっくりと伺い、受け止め、今後も相談しやすい関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	町内、法人内のサービスについても説明し現在の状況で、ご利用者にどのようなサービスが必要かグループホーム入所が適切なのと一緒に考えています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に掃除、洗濯をしたりと共同作業の楽しさを感じていただきながら過ごしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	今年度はコロナウイルスの感染防止のため面会禁止としているが、ご家族とは密に連絡を取り合っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今年度はコロナウイルスの感染防止のため、頻度は減っているが、ガラス越しの面会を行っている。	従前は、友人の来訪が多くあった。散歩中に地元の神社を参拝し、ひいきのお店でお菓子や梅干購入している人もいる。年賀状や手紙・電話の取次ぎをしている。好みの新聞購読を継続している人もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共通の趣味や話題を見つけることのお手伝いをさせてもらい、ユニット内が仲良く温かい雰囲気になるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	法人内他事業所に移られた方でもこれまでの関係を大切に、必要があれば相談、支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意向については本人が語る場合にはそれを受け止め、語れない方でも表情、態度から推察している。会議でもその方がなにを望んでいるのか検討し思いに沿うように努めている。	日常会話やテレビ、折込広告を見た時の反応等から思いや意向を把握している。収集した情報は、申送り等で共有している。自宅の様子を見たい、亡き夫の植えた桜を見たい等の意向を叶えている。	従前も、思い・意向をくみ取る努力をしていたが、訴えの大きい人を優先してしまうことがあった。表現の難しい人からの思い・意向を察知する能力の一層の向上に期待する。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの経過を本人、家族、ケアマネ等から詳しくきいている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎月のモニタリングにて心身状態、新たなニーズ等の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族との話し合いや職員間の連絡、相談、会議により現状に即したケアプランを作成している。	3ヶ月毎に見直している。計画の実行の有無や達成状況を記入した支援経過を基に、本人の満足度を併せて会議を開き、原案を作成している。原案を医療職も確認し、利用者・家族に説明後同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録を基本とし、気づきや改善点については連絡ノートや会議録により全員で情報共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	それぞれのニーズ、その時々々のニーズに合わせて既存のサービスに捉われない柔軟な支援を目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問理容、訪問歯科や傾聴ボランティア等、様々な方の協力を得ながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的にはご家族に対応していただいている。職員が同行することも可。主治医による訪問診療もあり。	従前の医師、協力病院との選択は可能である。医師は月1回、看護師は週2回の来訪がある。医療職とは医療ファイルを利用して情報共有を図っている。日常を共有することで減薬にもつながった。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は日常の関わりの中で捕えた情報や気づきを看護職に伝え、適切な看護や受診を受けることができる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時、病院関係者と連絡を取りながら状況確認している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に終末をどう望んでいるかを本人、家族と話し合っている。その後も状態により都度意思確認をしている。	契約時に意向を確認し、その後の変更にも柔軟に対応している。経口摂食が難しくなった段階で、家族・医師・事業所で面談を行い再度確認をとっている。研修は定期的に行っており、看取り経験はないものの、条件が整えば今後対応する方針である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応、連絡体制、AEDの使用方法について訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練で初期消火、119番通報、避難誘導の訓練をしている。それ以外に夜間想定避難訓練も行っている。	法人と地域とは、防災協定を結ばれている。地域内にある系列事業者が一体となった災害対応計画が作成され、HPにも記載されている。避難訓練や通報・消火器訓練等は定期的に行い、消防署から助言も受けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに十分配慮した声掛けや対応を心掛けている。	個人情報、錠付き書架に収納、パソコン・タブレットはID/パスワードで管理している。申送りを事務所内で行っている。トイレは二重扉になっており、おむつ交換等は、扉やカーテンを使うなどの配慮をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中でご本人が希望や意見を話しやすい環境を作り、自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合に関わらず、ご利用者の意思、気分、決定を大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類はなるべくご家族に用意していただき、その方らしいおしゃれができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員による手料理を召し上がっていただき、好評をいただいている。役割のひとつとしてご利用者には食器拭きを手伝っていただいている。	職員が輪番で調理し、食器やテーブル拭きを手伝う人もいる。お節、ちらし寿司等の行事食や庭で栽培した夏野菜が食卓にあがる。弁当やハンバーガーを買ってくる時もある。おやつに作るパフェは好評である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態、量を個別に設定し配膳している。水分量は一日1リットル以上を目安にしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きを行っている。義歯の方は夜間は洗浄剤に浸している。口腔内に異常があった場合には早急に訪問歯科に診ていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時のトイレ誘導の他に一人一人のパターンに合わせた支援を行い、プライバシーを傷つけないよう努めている。	排泄記録はタブレット端末に入力、データ化し最適な時間に誘導するようにしている。失敗やパット数の減少に成功している。場所をわかりやすくする為、横出し案内板や矢印を貼りだしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排便チェックを行っている。水分補給や体操により、できるだけ自己排便できるよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の時間は決まってはいるが、その方の生活を尊重し、その方のタイミングに可能な限り合わせらえるよう調整している。	週2回であるが、増回や同性介助は可能である。フロアの順番表を確認し準備を行う人もいる。浴槽は3方向から介助可能である。車いす利用の人には2人介助で対応している。季節には、ゆず湯や菖蒲湯をおこなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は決めてあるが、起きていたい方、余暇活動を希望する方は自由に過ごしていただいている。環境を整えることで気持ちよく休んでいただきたいが、どうしても必要な方には主治医と相談のうえ眠気を促す薬を処方されることもある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医に処方してもらい、職員が複数人でチェックすることで誤薬を防いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	残存機能や生活歴を活かした趣味を楽しんでいただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望に沿って散歩やドライブに出かけられるよう努めている。天気や外気温により見合わせることもある。コロナウイルス感染予防のため、ご家族との外出は必要な受診以外は中止している。	天気のいい日には、散歩に出かけている。従前は、花見や外食に出かけていたが、現在は、個別でドライブに出かけている。地域の花の名所や思い出の場所に出かけている。眺望のいいテラス席で一緒に歌うなど外気浴をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはご自分でお金を所持していただくことはなく、事業所でお預かりしている。お小遣いは医療費やオムツ代、本人が買いたいものに使っていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族への電話は基本的には自由にできるよう支援している。あまりにも頻度が多く、ご家族が疲弊してしまう場合には、相談のうえ職員が説得し控えていただくこともある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	冷暖房により適切な温度を保っている。行事写真や季節ごとの飾りを掲示することでご利用者同士の会話のきっかけになっている。	玄関には、お雛様が飾られ、フロアでは、職員が作成したDVD体操や季節を感じる制作が行われている。窓からは鴨の泳ぐ池が、テラスからは夕日が見られ、思い思いの場所でくつろぐことができる。掃除は、職員と協力しながらおこなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合うご利用者同士で居室を行き来したり、テラスに出てお話しをされたりと自由に過ごしていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	チェストや置物等、ご本人の好みに合わせて環境を整えている。基本的には使い慣れたものを持ち込んでいただいている。	ベッド、クローゼットは、備え付けである。掃除は、本人とおこなっている。テーブルやソファを持ち込んだり、家族写真や自筆画を飾っている。居室のテレビでスポーツ観戦したり、編み物をして過ごす人もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分の居室を掃除していただいたり、テーブルを拭いていただいたり役割を持ちながら自立した生活が送れるよう工夫している。		